校長室だより

令和２年度
11 月 25 日
ＮＯ．６

古の都の姿を思い浮かべる！（修学旅行）

新たにコロナ感染症の拡大が心配な状況になってきました。今年度の修学旅行は１１月４、５日に実施されましたが、そのころはコロナが少し落ち着いていた時期だったので実施できて本当によかったと思っています。

例年は、京都・奈良に行っていた修学旅行でしたが、今年度はコロナの影響で京都を避けることとなり、目的地を飛鳥と奈良に変更しました。当初は生平小学校と一緒にバスで行く予定でしたが、目的地や日程等について調整が難しいと判断し単独での実施となりました。なお、今後も本校と生平小は、別々に修学旅行を行うことにしたいと考えています。

今年度の修学旅行の大きな特徴は、飛鳥路を全員で自転車に乗って回ることでした。石舞台や高松塚古墳、キトラ古墳、そして飛鳥寺と主だったところはすべて回ることができました。子供たちは、それぞれに古（いにしえ）の都の姿を思い浮かべたのではないでしょうか。担任の社本先生が事前に現地を訪れ、地元の人たちからのアドバイスも受けた上で綿密なコース設定をしてくれました。そのお陰で、迷うことなく全員が安全にスムーズに回ることができました。６年生５人という少人数だったかたらできたのかもしれませんが、オリジナリティあふれるいい修学旅行だったと思います。

▲自転車で飛鳥路を走る６年生

また、今回は、新幹線、近鉄、ＪＲ在来線、市バス等の多くの公共交通機関を利用しての修学旅行でした。これも今までになかったことです。乗り換えが多く添乗員も付いていなかったので心配もありましたが、社本先生が下見で同じ時刻の電車やバスに乗り、込み具合や道順をしっかり確認しておいてくれたので安心でした。子供たちも、「連れて行ってもらう修学旅行」から「自分で行く修学旅行」という意識だったと思います。楽しみながらも緊張感を持ち、自分で考え判断し行動しようとする姿があったと感じました。実施自体が危ぶまれた修学旅行でしたが、結果的になかなかできない価値ある行事になったと喜んでいます。校長として、社本先生や６年生の取り組みを高く評価したいと思います。

今回の修学旅行では、今年度から個々の子供に配られた iPad を活用しました。旅行中も事前学習の内容や日程等について適宜 iPad をつかって確認したり、各自で写真をとって編集したりするなど、それぞれに有効活用をしていました。２４日からは１日一人ずつ昼のショートスタディの時間に iPad を使ったプレゼンテーションが行われています。報

告会には５年生も聴衆として参加しています。５年生にとってはいい刺激になるはずです。来年度はまたどんな修学旅行を創ってくれるか今から楽しみです。

ところで、iPad については現在、４年生まで一人一人に配られています。これをマイ iPad として中学３年生まで使用することになっています。さらに岡崎市教委は、他市に先駆けて今年度中に小学校１年までの全員に iPad を配る予定と聞いています。iPad の活用は様々な可能性を秘めていると思います。本校でも iPad をより有効活用できるように条件整備に取り組んでいくつもりです。

▲修学旅行のまとめの発表

また、今後は個々の iPad を家庭に持ち帰れるようにする予定です。これからは家庭学習と学校での授業との連携もますます図られるようになるでしょう。教育における情報環境は急速に進んでいます。秦梨教育もこの波に乗って、子供にとって価値ある教育を実現できるよう一層努力していきたいと考えています。

２４日から「かけ足」が始まりました。３０日までは学校のグランドで走り、１２月１日からは校外に出てマラソンコース（才栗）を走ります。そして、マラソン大会を１２月９日に実施します。この期間中、特に才栗の住民の皆様にはご迷惑をおかけします。例年のこととはいえ、ご理解とご協力をいただいていることに感謝いたします。

体育的行事として最も大きいものは、「学区大運動会」です。しかし、今年度は中止せざるを得なくなってしまいました。それに替わるものとして、去る１０日に「ミニ運動会」を行いました。これは、「子供たちの活躍の機会をつくってほしい」というＰＴＡ役員の方々の声を受け十分に検討の上で実施に至ったものです。徒競走と障害物リレーというシンプルなものでしたが、前後期の体育委員を中心に、実施内容の検討から当日の競技のスターターや招集、アナウンス等まで、「ミニ運動会」の企画・運営を子供たちに任せてみました。体育主任の貝沼先生の的確な働きかけもありますが、子供たちは見事にその責任を果たしてくれました。子供たちは有能であることを改めて実感できました。例年の「大運動会」に比べると質素なものだったかもしれませんが、違う観点から見ると、価値ある「ミニ運動会」だったのではないかと思います。

「ピンチがチャンス」という言葉があります。コロナ禍で教育活動にも様々な制限がかかっています。子供の健康と安全を考えるとやむを得ないことですが、その制限はこれまでの教育活動を見直すきっかけにもなっています。私は「現状維持は停滞を生み、やがて後退する」という言葉が好きです。何事においても「すべてこれまで通り」ではなく、よりよくするために「今回はここを変えよう」とする姿勢が大切だと考えています。よき伝統を継承しながら、新たなチャレンジを厭わないという姿勢でこれからも秦梨教育に取り組みたいと思っています。